

学校名	伊那中学校	
ホームページURL	生徒数 460名	
(1) テーマ ・地域 ～現在・将来・未来の伊那市のために できることをしよう～ ・学級「テーマPPF活動」 テーマの分類( ) 下記の欄外記載事項を参照してください。	(2) 活動の単位に をつけてください  学級 ・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他( ) 該当学年 1年 (回答可能な場合)	
(3) 活動のねらい ・地域を知る活動から、交流活動、清掃活動など奉仕的な活動に発展させ、地域に生きる一員としての自覚を高めていく。		
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) ・4月から班毎で調査活動を実施。自分たちで考えた「伊那市のためになること」と地域の方々から聞いた「伊那市のためになること」の差を埋めるため、活動してみた。 ・老人ホームとの交流や、河川清掃、公園清掃、一人暮らしの老人との交流、保育所との交流など、各班が交互に体験しながら、クラス全体の取り組みをどうするか考えてきた。  20時数(35)		
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) ・学校一斉の総合の時間であるために、原則として学級担任が単独で指導することになる。地域の人材との交流は今後の課題として検討中である。		
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ・隔週土曜日の2時間を総合の時間として、年間35時間。教科との連携は特にない。家庭を通しての情報収集はあるが、連携という場面までは設定できないでいる。		
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ・自己評価。指導目標が明確になっていなかったため、評価も曖昧なものとなっている。現在プロジェクトチームを結成して、カリキュラムなど抜本から改訂、検討中である。		
(8) 成果と課題 ・子ども達が、生き生きと活動できるよう、教師の出を抑え、共に学ぶと言う発想で始めた。クラステーマの立ち上げに時間をかけたため、自分たちが本当にやりたい活動を仕組み、生徒が主体的に動けるようになった。ただ、カリキュラムが曖昧であり、到達目標などを設定しなかったため、特別活動の延長線上にあるような活動になってしまった。		

テーマの分類 横断的・総合的な課題( -ア 国際理解 -イ 情報 -ウ 環境  
-エ 福祉・健康 -オ その他) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や  
学校の特色に応じた課題